

あなたと議会の情報ネットワーク

あおがら21

熊本県・みふね町議会

3年ぶりの紅葉ライトアップ
(11月22日～11月26日 七滝神社)

所管事務調査	2
総務文教常任委員会視察研修	4
産業厚生常任委員会視察研修	6
議会改革推進特別委員会視察研修	8
廃棄物処理施設に関する全員協議会報告、上益城郡議員研修	10
「廃棄物処理施設に関するご意見を伺います」意見交換会参加者募集	11
広報研修報告	12
議会改革推進特別委員会×御船町消防団	13

No.194
11月議会
R5.12

所管事務調査

総務文教常任委員会

当委員会では、各課の事業進捗状況について説明を受けた後、採択後の請願・陳情の処理状況についてヒアリングを行った。

■ 今年度の所管事務調査

実施日

10/10 総務課・学校教育課

10/12 秘書政策室・危機管理防災課・まちづくり課・町民税務課・会計課・社会教育課

実施内容

- ・各課の事業進捗状況把握
- ・採択後の請願・陳情の処理状況確認

10月に行った委員会調査内容

総務課

- 人事評価制度の円滑な運営
- DX推進に関すること
- 公会計に関すること 等

秘書政策室

- 10の政策の実現に向けた進捗管理
- 積極的な情報発信の推進
- 秘書業務 等

危機管理防災課

- 地域防災力の強化に関すること
- 消防団の確保に関すること 等

まちづくり課

- ふるさと納税推進事業
- 地域公共交通計画策定業務
- 移住定住促進、関係人口創出事業について 等

町民税務課

- マイナンバーカード交付事務
- コンビニ交付・キオスク端末導入
- 町税及び国民健康保険税の滞納関係について
- 町税の賦課業務 等

社会教育課

- キッズドリーム運動公園プロジェクト
- 七滝社会教育センター跡地利用
- 特別展事業 等

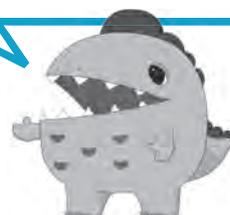
会計課

- 公金収納に係る手数料支払いに関すること

学校教育課

- 不登校及び不登校傾向児童・生徒への対応
- GIGA スクール構想
- 施設整備 等

他にも産業厚生常任委員会は農業委員会、総務文教常任委員会は選挙管理委員会や他の委員会の所管ではない事務の調査や審査も行うよ。

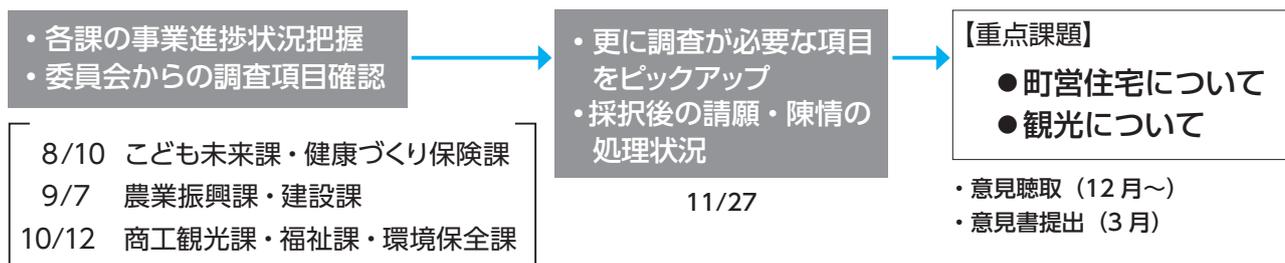


御船町議会には2つの常任委員会が設置されており、議員はそのどちらかに所属しています。各常任委員会にはそれぞれ、調査すべき所管事務が割り当てられ、行政の事務が適正に執行されているか調査を行います。

産業厚生常任委員会

当委員会では、各課からの事業進捗状況把握に加え、今年度は委員会側からも調査項目を抽出した上で、執行部からのヒアリングを行った。また今後は、更に深掘して調査する項目をピックアップし、委員会としての意見をまとめて町へ提言していく計画だ。

■ 今年度の所管事務調査の流れ



8月から10月にかけて行った委員会調査内容

福祉課

- 介護・閉じこもり予防について
- 眺世庵の活用状況 (令和5年度)
- 介護サービスについて (他市町村との比較) 等

こども未来課

- 各保育施設の労働環境について
- 児童虐待に関する本町の対応について
- 育児支援サービスについて (他市町村との比較) 等

健康づくり保険課

- 健康増進事業について
- 母子手帳交付数の推移 (過去5年) 等

農業振興課

- 御船町公益的機能発揮森林整備事業について
- 獣害による通学路への危険個所の把握
- 地籍調査の現状と課題について 等

商工観光課

- 台湾企業誘致活動について
- 木倉字毘沙門への企業誘致について
- 街中ギャラリーの収支推移 (過去5年)
- 恐竜博物館との連携について 等

建設課

- ふるさと納税による町道の維持管理・新設改良について
- 子供が遊べる公園のリスト (現在・新設の予定)
- 老朽化した町営住宅対策について 等

環境保全課

- 水道施設の更新、老朽化した水道管の布設替工事について
- 内水対策について
- 上野地区に整備が予定されている廃棄物処理施設について 等



建設課との所管事務調査の様子



北九州市
上天草市
宇城市



総務文教常任委員会視察研修

11月8日 北九州市漫画ミュージアム
11月9日 北九州市立文学館
11月17日 不知火美術館・図書館、
新大矢野図書館

研修テーマ

「施設運営・設備等について」

指定管理者による美術館、自治体による図書館の運営を学ぶ

総務文教常任委員会 委員 増田 安至

●北九州市漫画ミュージアム

令和5年11月8日・9日に北九州市漫画ミュージアムと市立文学館に行き、それらの運営について研修してきた。研修の動機は、当委員会に「御船町に図書館や美術館・美術品の収蔵庫などが不足しているため、早急に対応協議すべき」と御船町文化協会から要望がなされたため。文化・芸術の発信に積極的に取り組まれている北九州市に学んだ。

北九州市漫画ミュージアムでは施設概要や運営、入場者と経営上の課題、補助金等について研修した。特徴は、北九州市直営

で、北九州ゆかりの作品が多く、漫画家作品・原画など展示されている点。博物館機能と約7万冊の本を収容する図書館機能も持つ利便性の良い施設だった。建物は、延べ床面積2330㎡（5階の企画展示エリア772㎡・6階の展示&閲覧エリア1558㎡）あり、民間複合施設を賃借しての運営は、利用客に対して利便性も良く効率的に建物を利用している印象。12名の職員（正職員6名と嘱託含む6名）が勤務されており、補助金・入館料・物品販売が主な収入で運営上の問題は特に無いとの事であった。



民間複合施設内運営等の説明を受ける



北九州出身の松本零士の作品の展示

●北九州市立文学館

2日目は、北九州市立文学館での研修。

北九州市にゆかりのある文学者を中心に作品の展示・業績の紹介などを行い、市民の文芸活動を支援し、豊かな文芸土壌を未

来へ繋ぐ活動をされていた。施設は昭和49年に建設した旧歴史博物館を利用し、職員は、館長をはじめ9名(学芸員3名・事務職5名・受付1名)で対応。所管は市の教育委



員会で、運営は指定管理制度を活用した契約で、市民サポーターとして60代～80代の応援団(年会費一人2000円)が180名ほど登録されていた。

北九州での研修は、規模や運営上の違いはあるが、御船町に文化・芸術的な取組が必要と感じた。



市立文学館では独自の文学賞も創設するなど地域密着した活動がみられる

映画のロケでも使われた図書館を見学

●不知火美術館・図書館

令和5年11月17日に不知火美術館・図書館、新大矢野図書館を視察した。

不知火美術館・図書館では平成28年の熊本地震を契機に、一体的改修を目的として指定管理者(カルチャ・コンビニエンス・クラブ(株))を導入されたところ。施設改修に伴う設計業務から改修後の運営まで実施されている新しいスタイルの施設である。敷地全体の提案は、人を寄せ付ける「仕掛け」が随所にみられ、ユニークかつ新鮮なアイデアを感じた。マルシェやイベントによる賑わい創出、こども絵本の設置、ライブラリー&カフェの運営、体験型の企画展、地域の魅力を紹介するミュージアム

ショップ、町の人との協働など、特色のある施設運営をされていた。

●新大矢野図書館

一方、大矢野の新大矢野図書館では、平成16年3月に4つの市町合併時から課題となっていた天草四郎博物館の隣に、平成30年6月の世界文化遺産登録を記念して設立されたもので、「本と歴史の交流館イコット」という名称となる。

共に約10億円の予算と年間に約3000万の運営費がかかっている。御船町でも計画を検討するにあたり、町の文化振興計画を見直し、課題を整理していかなければならないと思った。



不知火美術館・図書館前にて



新大矢野図書館にて説明を受ける



鹿児島県

鹿屋市
大崎町



産業厚生常任委員会視察研修

11月21日 鹿児島県鹿屋市 子育て支援住宅「ハグ・テラス」
11月22日 鹿児島県大崎町 「OSAKINI プロジェクト」

PFI活用の子育て住宅とリサイクル施設を視察

産業厚生常任委員会 委員長 ジェリフ はづき

※令和5年11月より井藤はづき議員が結婚のためジェリフはづき議員に氏名変更

●鹿児島県鹿屋市 民間資金を活用して子育て住宅

1日目は鹿屋市にて、「ハグ・テラス」と称された子育て支援住宅について視察研修を行った。鹿屋市は人口約10万人で昨年度卒業した高校生約900人の内、地元に残ったのは65人に留まったという。

そのような状況に危機感を覚え、中心部の公有遊休地に建てられた「ハグ・テラス」は、公営住宅法に基づく「地域有料賃貸住宅」であり、同時に「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律(PFI法)」の制度も活用することで、財政面の不足を補っている。

入居対象者は、18歳までの子どものいる世帯で、子どもが18歳を超えたら退居しなければならないという。また、敷地内には入居者が小さな子どもを遊ばせるために自由に使用できるスペースや、私立の学童施設等が併設してあるのも特徴的だった。御船町には子どもの遊び場が足りないとの声もあり、このような複合型の施設は、移住施策としてはもちろん、既にお住まいの子育て世帯への支援にもつながるのではないかと感じた。



ハグテラスの説明を受けた後、実際に施設の見学を行った



●鹿児島県大崎町 リサイクルで埋立量を大幅削減

2日目は大崎町の廃棄物処理について視察研修を行った。焼却炉を持たないことから、以前はリサイクルを徹底せずに大部分の廃棄物を埋立てていたが、使用している最終処分場が平成16年にはいっぱいになってしまうという想定が出たことが、廃棄物処理の在り方について検討するきっかけになった。焼却施設の新設は財政的に難しく、最終処分場の新設も住民の理解が得られないため、既存最終処分場の延命化(埋立ごみ量の削減)を実施することが決定した。

大崎町では、最終処分場は公設公営、中間処理工場と有機物(生ごみ等)堆肥化施設

は民設民営で運営している。民営部分での取扱いもほとんどが一般廃棄物であることから、町からも大きな予算を投じて経営を支えている。

焼却炉を持たないことでコストを削減し持続可能な廃棄物処理を実現することを目指している同町は、住民の協力により80%以上のリサイクル率を達成している。現在でも、紙おむつのリサイクルの実証実験を行うなど、更なる取組みを推進している。また、資源ごみ売却収入を活用した奨学金制度の導入など、リサイクルの取組みが住民に見える形で還元される仕組みもあり参考にしたい。



埋め立て施設、リサイクル工場の見学を行った





11月15日 福岡県須恵町議会
11月16日 福岡県那珂川市議会

研修テーマ

「議員報酬等について」

町民の選択肢を増やし、町民の意思が生きる 議会を

議会改革推進特別委員会 委員長 福永 啓

●福岡県須恵町議会

福岡県須恵町議会議員選挙は、近年も無投票になることはなかったが、将来的人材を確保するために、議会改革に加えて議員報酬の改定を行った。

御船町議会改革推進特別委員会において、これまでの意見聴取から明らかな課題である「議会の情報発信」については、どの議会でも課題としてあげられることが大変多く、ここ、須恵町でも同様の課題があることから、須恵町議会では委員会と本会議のライブ配信を始め、1日50人前後の視聴者数があるという。

御船町議会においても、一般質問の録画配信がなされているもののライブ配信ではなく、委員会や本会議の配信は録画、ライブ共になされていない。

この点に関しては、議会内で実施に向けた共通理解は得られているので、出来るだけ早い時期の実施を目指していきたい。

議員報酬の増額改定にあたっては、議会内で町民の反応やマスコミの反応を懸念する声があったものの、実際は逆で、議員のなり手不足に対する懸念が大きかったことなどから、町民からの反対意見もほぼなく、



新聞でも議員報酬の改定に対する好意的な記事が掲載されるなど、議会の活性化に期待する声が大きかったとのことだった。

須恵町議会では、議員報酬増額改定後も

議会改革先進地の例を積極的に取り入れようとされており、御船町議会としても参考にすべき部分が多い研修だった。

●福岡県那珂川市議会

福岡県那珂川市は、昭和31年の合併で那珂川町となった当時は人口1万に満たなかったが、福岡市のベッドタウンとして人口が増え、新幹線の引き込み線を利用した「博多南駅」の開通などもあり、平成27年の国勢調査で人口が5万人を超え、平成30年に市制が施行された。（御船町の場合、昭和30年の合併で新制御船町が誕生した当時の人口は約2万3千人）

那珂川町当時の議員報酬は月額30万円。町としては福岡県内で2番目に高い議員報酬だったが、市になったことにより、福岡県内でほぼ最低レベルの議員報酬となり、また、12年間以上も特別職等報酬審議会自体が開かれていなかったことなどから、議員報酬に対する検討が始まった。検討の結果、執行部提案という形で令和4年の12月会議で議員報酬改定の議案が上程され賛成多数で可決。令和5年4月より3か年で段階的に議員報酬をアップすること

が決まった。（令和5年4月から月額33万2千円、令和6年4月には36万4千円、令和7年4月には月額40万8千円）

那珂川町時代の町議会選挙は、17人の定数を大きく上回る立候補者が続き、候補者にとっては大変厳しい選挙戦が繰り広げられていた。

一方で市政施行後初めての選挙では定員プラス2という、比較的競争率の低い選挙となっていたが、議員報酬アップ以降、すでに次の市議選挙に対する立候補準備に関する活発な動きが出始めているという。

地方自治は住民の意思に基づいてなされなければならない。その住民の意思を代表する機関である議会議員のなり手が多という事は、町民として選択肢が多いという事であるので、候補者にとっては厳しいことかもしれないが、町民にとっては大変有利なことである。



廃棄物処理施設に関する全員協議会報告

廃棄物処理施設に関する作業部会 部会長 福永 啓

御船町上野地区に施設整備が予定されている廃棄物処理施設について、11月14日(火)、町執行部、上益城広域連合、事業者(シムファイブス)を全員協議会に招いて、2回目となる認識の確認を行った。

1回目(10月10日)は時系列に沿って、従前の計画から新たな計画の環境アセスメントに至るまでについて3者の認識を確認したが、今回はそれぞれの役割分担、新たな事業計画に対しての課題、その解決策、および新たな事業計画の利点や、事業計画の実効性をどのように担保するのか等についての認識を確認した。

議事録及び資料等は議会ホームページに掲載してあるのでそちらをご覧ください。

これで3者に対する認識の確認はいったん終了し、次の段階である、町民及び町内団体のからの意見聴取に移っていく。

右側P11の要領で参加者を公募するので、是非皆様のご意見をお聞かせいただきたい。

廃棄物処理施設に関する
作業部会 QR コード⇒



議員研修報告

3年ぶりの上益城郡議員研修

副議長 田上 忍

山都町にて3年ぶりに郡議員研修が開催された。まず県で現在唯一残っている人形浄瑠璃「清和文楽」の研修そして町対抗グランドゴルフ大会を行い親睦をはかった。

●清和文楽

清和文楽は阿波淡路系だといわれ、農村舞台や仮設舞台を巡業していた。これらの舞台ではかがり火やロウソクなどの明かりが少なかったため、観客が見やすいように人形の身ぶり手ぶりを大きくするための工夫がされている。

国選定保存技術者(人形師)の故・大江巳之助氏は、清和文楽を「芸熱心な山里の人々が代々よく習い伝えている。古風で素朴、大きな動きに国々を廻った淡路の技が伺える。」と言う。

頭の特徴を「天狗久のものが数点ある他は九州の細工人の作である。中田林太郎、夏田武次郎、矢野喜八等の細工人の名を知ることができた。それぞれお芝居をよく知っての作りで役の性根を心得て、私たち職人の及び得ぬ力強さ、素朴さがあるために、かえって舞台上で情感が出る。頭の大きさ、様

式から考えて、明治初期のものが多い。」と語っている。(引用：清和文楽館公式サイト)

このような上益城郡の宝物を知ることができ良い研修になった。



はじめに人形の動作の説明を受け、清和文楽を鑑賞した

●グランドゴルフ大会

第1位 嘉島町 第2位 甲佐町 第3位 益城町
第4位 山都町 第5位 御船町
ホールインワン賞(御船町) 中城峯雄





御船町内団体及び町民に向けた



廃棄物処理施設
に関するご意見を伺います



参加者募集

主催：御船町議会 廃棄物処理施設に関する作業部会



御船町議会では、御船町上野地区にて検討中の廃棄物処理施設について、新たに「廃棄物処理施設に関する作業部会」を立ち上げ、議会全体で情報収集・研究をすることになりました。つきましては、町民の皆様のご意見等をお伺いするため公募いたします。団体でのお申し込みでも、個人でもどちらでも構いません。皆様のご応募をお待ちしております。

応募概要

募集期間：2023年12月15日～2024年1月15日

応募資格：御船町民・町内事業者

主な内容

- ① 計画中の廃棄物処理施設についての不安、もしくは期待と、その理由。
- ② 計画中の廃棄物処理施設はどのようにあるべきであるかと、その理由。
- ③ その他、廃棄物処理施設に関するご意見、ご要望など。

実施日：個人の方は2月2日(金)午前中・3月1日(金)午前中を予定
他 随時調整し、申し込み多数の場合は抽選にてご案内いたします。

参加の申し込み

お名前	お電話番号	ご希望の日程・期間・曜日など

ご応募
フォーム



FAXはこちらへ 096-282-1476

お問合せ：御船町議会事務局 096-282-1386

HAIKIBUTSUSYORISHISETSUNIKANSURUSAGYOUNBUKAI



「少しは化けましたか? ~相違、熱意の取組に学ぶ~」 を受講して

議会広報編集特別委員会 委員長 増田 安至

令和5年11月10日に熊本県町村議会広報研修会が開催された。参加は、南小国町・御船町・芦北町・五木村・苓北町・産山村・高森町・球磨村の8町村、各広報委員が40名ほど。去年の研修のタイトルは「そろそろ化けませんか!!」で、今年は「少しは化けましたか!!」となり、毎年進化しているとのこと。町村議会広報研修会に毎年参加している御船町広報として、この一年間の「変化・進化・深化」を再認識する研修会となった。

講師は、討論型クリニックにこだわる議会広報ファシリテーターの越地真一郎（熊本大学客員教授）氏。事前に参加する町村の広報誌に目を通して来る予習型講義で、各町村の創意・工夫を自分の広報誌にいかに関与させるか、そして活かせるかを吟味しながら実践していく気の引き締まる研修となった。

御船町の広報については、はじめに題字（毎年、御船高校生が書いてくれる）がとても達筆で、素晴らしいとお褒め頂いた。ま

た、紙面も分かり易いし、執行部とのやり取りの記載が興味深い、町の広報誌と差別化を意識してあるのが良い、一般の人にもわかるような言葉使いをしてあるなど、多くの声を頂いた。最後に年12回の発行は、他の町村では類を見ないとも評価頂いた。悪い意見は無く、討論出来なかったのが残念だった。

最後に講師から、新聞リード文章の工夫や、議会だよりに必要な工夫など教授いただき、住民に伝わる広報がいかに関与するか、校正・校閲がいかに関与するか、毎月の発行で身に染みる苦勞を思いだした。またAI・チャットGPTなど、最先端の話題にも触れられたが、やはり人間が考えて創る文章は永遠に不滅だと感じた。

これからも進化していく広報誌を目指し、記載したい内容や伝えたい話題を、良い点を伸ばしながら更に精進していきたいと思った。これからも御船町の魅力をしっかりと紹介して、内容を充実させ、分かり易い広報誌を目指して行く。



講師の研修を熱心に聞く広報委員



クリニックでは他の市町村からの質問に簡潔に答えた

議会改革推進特別委員会



御船町消防団

議会改革推進特別委員会 委員長 福永 啓



議会企画推進特別委員会では、広く皆様のお声を伺いながら、さらなる議会改革を進めると同時に、議員待遇の在り方についての議論を進めている。今回は、町民の生命・財産を守る為、日夜活動を続けておられる「御船町消防団」の方々からお話を伺った。

Q1 議員報酬等、議員の待遇についてご存じか

- 知らない 8人
- 少しは知っている 4人
- 大体知っている 0人

Q2 議員の待遇は、会社員や公務員と比べてどの程度が適切だと思いますか

- 一般的会社員や公務員の平均と同じ程度 0人
- 一般的会社員や公務員の平均以上 11人
- 一般的会社員や公務員の平均以下 1人

Q3 議会及び議員に対してどのような役割を望むのか

- 町民の声を町につなぐ、要望を聞いてもらう。
- 特にない。興味がない。知ろうとも思わない。
- 議会の見える化をしてほしい。
- 議員が「町をこうしたい」と思っていることがどういうことなのか、またそれが叶っているのかもよくわからない。議員活動で提案しても出来なかった事も伝えるべき。分団長会議も同じで分団員を代表してきている。会議で意見を言って通らなかったら、そのことを自分の団員に伝えるようにしている。

Q4 普段、自分が情報を知るために使っているものは何か（複数回答）

- SNS 7人
- テレビ 6人
- 新聞 2人

Q5 多様な世代・職種の方々が議員になるためには議員待遇を含め、どのようにしたらよいか

- まず報酬。自分の仕事と比べて天秤にかけられるかどうか。
- 議員になって何かが変わるといものがないと。やりがいの問題。
- 地方議員だけではない。自営業でもなり手不足は起きている。
- 議員に出てほしいと言われても興味がないから断る。

御船町消防団は今年、最高の栄誉である特別表彰「まとい」を受賞した。熊本地震における救助活動を含むこれまでの献身的活動が高く評された結果だろう。御船町議会議員の中にも消防団出身の議員は多いが、意見交換において、団員たちの生活を犠牲にすることなく議員になれる環境を作っていく事の重要性を感じた。今後とも様々な職種、世代の方々と意見交換を続けながら、更なる議会改革を推し進めたい。





退職後のくらしと役割



秋只
倉岡雄二

令和4年6月会社を退職しました。約48年間、たいした病気もせず勤務することが出来ました。担当した職務は購買・人事労務・総務・物流などで、色々と経験させてもらい有意義なサラリーマン人生を送ることが出来たと思っております。

退職後はたいした趣味もありませんので、下手なゴルフや旅行や会食を楽しみながら、退職前に植えた柿とミカンの手入れと収穫なども楽しみたいと思っております。ところが、色々あって区長

の役が廻って来てしまい、地域に対する義務感もあり、引き受けることにしました。今まで地域との係わりが少なかつた為か？分からないことが多々あり、悪戦苦闘する羽目になっております。苦情を受けることも多いですが、地域の方々のコミュニケーションが増加し、温か味を感じる機会も大変多くなっております。任期の2年間はポケない様、体調管理に気を付けて、地域の方々に迷惑掛けない様に頑張りたいと思っております。

の役が廻って来てしまい、地域に対する義務感もあり、引き受けることにしました。今まで地域との係わりが少なかつた為か？分からないことが多々あり、悪戦苦闘する羽目になっております。苦情を受けることも多いですが、地域の方々のコミュニケーションが増加し、温か味を感じる機会も大変多くなっております。任期の2年間はポケない様、体調管理に気を付けて、地域の方々に迷惑掛けない様に頑張りたいと思っております。

1月の議会

- 5日 全協(予定)
- 23日 県議長会議員
研修会(オンライン研修)



竹あかりの優しい光に包まれて…
 七滝元気が企画されたイベント。優しい光の中、静かな夜に、笑い声が響き渡るひとときでした。



議会HPはこちら



地域おこし協力隊との意見交換会 vol.3



左から山下さん、水口さん

令和5年12月4日にオールみふね所属の山下麻紀さん(令和6年1月末任期満了)、アートネットワーク所属の水口泰自郎さん(令和7年8月末任期満了)と意見交換を行った。山下さんは、熊本地震の記録誌の発行に尽力された。また、令和6年1月12日に開催予定のジャズコンサートも企画されており、期待される。

水口さんは、京都芸術大学等で講師として活動された実績がある人。これからも情報発信に心がけ「美術や文化は芸術家だけのものではない!」をモットーに、アートコーディネーターとして未来に向けた活動を心掛けていくとのこと。
 二人に町への要望を尋ねると、町の歴史を大切にして、地域おこし協力隊同士の連携を強化し、それぞれが観光協会や商工観光課、商工会等とも連携していけるよう、議会でもサポートをしてほしいと意気込みを語られた。議会としても地域財産を活用し一緒に頑張っていきたい。
 広報編集特別委員会委員長 増田安至